

美と感動に出会う美術館

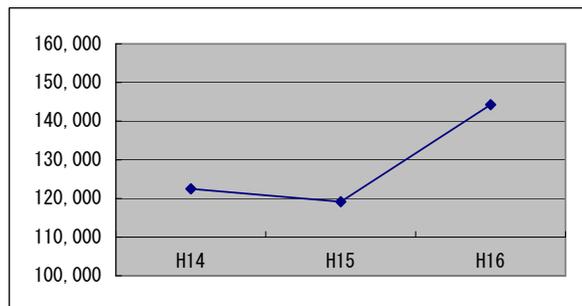
所在地	福井市文京3丁目16-1		
設置年月日	昭和52年10月1日		
施設の種類	美術館	施設管理主体	県
設置の目的	美術に関する県民の知識および教養の向上を図り、もって県民の文化の発展に寄与する。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造、地上2階、地下1階、延6,627㎡ 駐車場127台、貸展示室、研修室、会議室、講堂		
職員数	正職員8人、非常勤嘱託2人、事務補助1人 アルバイト3人 計14人		

利用状況等

	H14	H15	H16
利用者数(人)	122,470	119,155	144,281

利用者負担(利用料金)等

観覧料 使用料	常設展	100円
	企画展	美術館HP参照
	展示室等	美術館HP参照



利用状況の 推移	<p>平成15年度は企画展「三井文庫名品展」が大変好評で、約14千人の来館がありました。最終来館者数は対前年度比2.7%減の119,155人となりました。</p> <p>平成16年度は企画展「ピカソ、マティスと20世紀の画家たち展」および「北斎展」が大変好評で、約24千人の来館があり、また、テーマ展の来館者数も増加し、最終来館者数は対前年度比21.1%増の144,281人となりました。</p>
-------------	--

16年度の特徴について

事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 企画展を年間3回開催し、26,652人が来館しました。 <ul style="list-style-type: none"> 「ピカソ、マティスと20世紀の画家たち展」 4/16~5/16 入館者数 14,620人 「マン・レイ展」 6/11~7/11 2,274人 「北斎展」 10/8~11/7 9,758人
	<ul style="list-style-type: none"> 館蔵品によるテーマ展(常設展)を年間8回開催し、31,555人が来館しました。
	<ul style="list-style-type: none"> 優れた美術作品を鑑賞する機会の少ない嶺南地域で、移動美術館を3回開催しました。小浜市2回、敦賀市1回
	<ul style="list-style-type: none"> 美術愛好家や各種団体の主催する展覧会が年間82回開催され、86,074人が来館しました。 日本画、洋画、彫刻の3部門で、実技講座として基礎講座各10回、専門講座各25回実施しました。

マスコミとの連携

美術館では年間を通して数多くの展覧会を開いており(16年度例:企画展3回、テーマ展7回、その他の主催・共催展6回、貸館事業82回)そのつどマスコミに情報を提供しPRに努めています。またこれまで美術館では可能な限りマスコミとの共催展や実行委員会による展覧会の開催など、展覧会の開催についてもマスコミと連携してきました。(例:平成16年度に開催された三展のうち、「ピカソ、マティスと20世紀の画家たちフォーヴィスムとキュビスム」は福井新聞と実行委員会。「北斎展」は福井新聞共催、「マン・レイ」展は福井新聞後援。)

資料収集

平成16年度は、竹内栖鳳『満林秋色』、パブロ・ピカソ『ランプの下の静物』、フランシス コ・ゴヤ『諺(妄)シリーズ』、古沢岩美『東尋坊(海から見た)』、北川健次『サン・シュル ピュスの見えない庭園』他7点の計12件を購入しました。またその他に55点の寄贈を受けました。

研究成果

県立美術館では、職員がこれまでの研究の成果として以下の展覧会開催や論文発表を行いました。

- 国内5会場を巡回した「ピカソ、マティスと20世紀の画家たちーフォーヴィスムとキュビスムー」展の監修・翻訳および他会場での講演等
- 『永平寺蔵「寂円派諸師の頂相」について』
- 『描かれた神仏と祖師』
- 『金谷屏風』
- その他館蔵品の研究成果をテーマ解説の中で行いました。

福井県立美術館(2/2)

行政コスト計算書(平成16年度) (単位 千円)

		総額	構成比
人にかかるコスト	人件費	80,332	36.1%
	退職給与引当金繰入	▲ 10,109	-4.5%
	計	70,223	31.6%
物にかかるコスト	物件費	97,217	43.7%
	維持補修費	13,042	5.9%
	減価償却費	38,109	17.1%
	計	148,368	66.7%
その他	公債費(利子)	0	0.0%
	その他	3,799	1.7%
	計	3,799	1.7%
合計		222,390	100.0%

バランスシート(平成17年3月31日現在) (単位 千円)

借方		貸方	
資産		負債	
有形固定資産	5,154,445	固定負債	55,020
投資等	0	流動負債	0
流動資産	0	正味資産	5,099,425
計	5,154,445	計	5,154,445



施設の特徴

- ・館藏品によるテーマ展や企画展の開催のほか美術愛好家のグループや団体の展示が年間80数回開催されています。また、実技講座の開催など教育普及活動にも取り組んでおり総合型の美術館として機能しています。
- ・日頃優れた美術品を鑑賞する機会が少ない嶺南地域で、移動美術館を3回開催しています。
- ・作品解説、受付、監視など様々な面でボランティアが活動し県民サービスの向上に貢献しています。

今後の課題

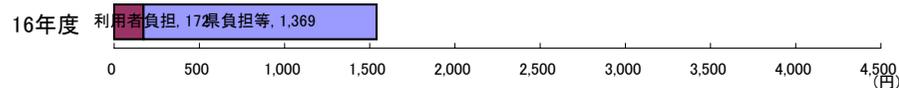
- ・リピーターの来館者が多いが、新規層の開拓が必要です。
- ・開館以来27年経つなかで、サービスの向上が必要です。

(単位 千円)

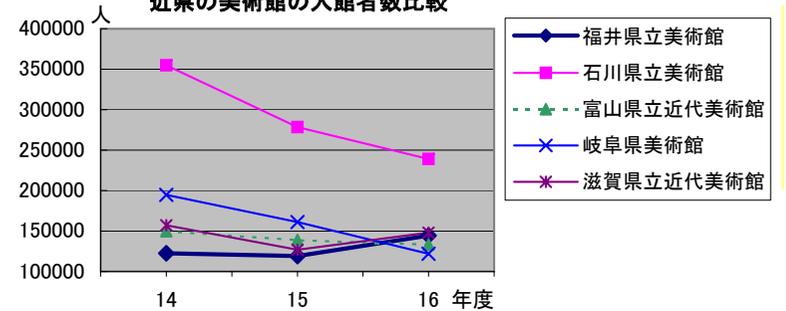
収入			
収入	利用料等収入	24,782	11.1%
	その他収入	4,236	1.9%
	一般財源	193,372	87.0%

利用料等収入計	24,782,000 円
利用者1人あたり平均利用料	172 円
利用者1人あたりコスト	1,541 円

利用者1人あたりのコスト負担の状況



近隣の美術館の入館者数比較



バランスシート、行政コスト計算書の特色

- ・施設の設置が昭和52年と古く、減価償却費の割合が低くなっています。
- ・有形固定資産の内、建物が1,001,777千円と19%を占めています。
- ・有形固定資産には、美術品3,506,940千円含み、全体の68%を占めています。
- ・屋上防水改修等の大規模修繕を行ったため、維持補修費が増加しました。



今後の事業方針

- ・これまで岡倉天心が率いた日本美術院の画家たちの作品の収集に力を入れてきており、この分野のコレクションでは全国的に著名となっています。今後も岡倉天心ゆかりの美術館としての特色を出していきます。

取組み内容

- ・県民の多様なニーズにできるだけ応えるため、これからも様々な分野の企画展を開催していきます。
- ・常設展示室内で、岡倉天心コーナーを新設し天心ゆかりの美術館としてアピールしていきます。
- ・天心を中心とした福井ゆかりの注目すべき作品を通して全国の美術館と相互交流をし、県立美術館の認知度をより一層高めていきます。
- ・企画展などで児童生徒が理解でき興味を持つワークシートを作成するなど将来の美術享受層の拡大を図ります。